

関西学院グリークラブ80周年記念演奏会【1979年(昭和54年)9月2日】

大阪フェスティバル



● 男声合唱組曲「雪明りの路」より

春を待つ 作曲／多田武彦 作詞／伊藤整

月夜を歩く 指揮／北村協一

関西学院グリークラブ80周年記念演奏会おめでとうございます。

60周年のときも、70周年のときも私は同じことを書いて来ましたが、今回もいざメッセージを書く折になると、やはり昭和24年5月の50周年記念演奏会を思い出します。

終戦後まもなくの昭和24年は、世間はまだまだ落ち着いた状態ではなく、みんな息を殺して生きていたような頃でしたが、そんな新緑の一日、詰襟の黒一色の列から奏でられる無伴奏男声四部合唱の、すさまじいばかりの美しさを湛えた関西学院グリークラブの演奏のかずかずを、私は固唾をのんで聴き入っていました。

あれから30年。関西学院グリークラブは、日本の合唱界の頂点を、ずっと歩みつづけてきました。先輩の少しづつ築いて行った伝統を持ちつづけながらも、その時代時代に沿った変遷と進歩をとげて来ました。

どうかこれからもずっと、この日本に、皆さんがたの作り出す素晴らしい音楽をいつまでも残して行って下さい。機会あるごとに、若々しい皆さんがたの男声合唱をきいて、心をやわらげたり、勇気づけられたりしている沢山の人が居るのですから。

演奏会のご成功と今後のますますのご発展をいのります。

多田武彦

作曲家